

- 神 楽 名 ふるえだお
古枝尾神楽
- 伝 承 地 ふるえだお
古枝尾地区
椎葉村大字不土野古枝尾
- 指 定 等 国指定重要無形民俗文化財
- 伝承団体 古枝尾神楽保存会
代表 那須宗則



手力面

□神楽の概要・由来・その他

古枝尾地区は椎葉村の西端、不土野川流域の山間地に位置する、世帯数 16 戸の集落である。昭和 40 年頃までは、古枝尾八幡神社の四季ごとの祭りが旧暦で行われ、当時は春祭りにも神楽が奉納されていた。現在は春祭りには的射が、冬祭りとして神楽が奉納されている。平成元年に古枝尾センターが建設される以前は、民家を神楽宿とし、上組と下組の 2 組が輪番で夜どおし神楽を行っていた。保存会の高齢化のため、近年は昼頃に始め夜中の 12 時過ぎに終える形となっている。

古枝尾神楽の特徴は、六調子のゆっくりとしたテンポと、足の腹を見せないようなすり足の舞いである。鈴は錫杖型のみを使用し、衣装は紋付き袴で舞うことがこだわりである。「座直り」「地ガタメ」「三熊」などの演目の後に御神酒がふるまわれ、参拝者は祝子より「重ねの酌」で 2 度ずつ盃を受ける。

□芸能の機会・場所

- 古枝尾八幡神社冬祭り

12 月第 2 土曜日、昼頃から深夜 12 時過ぎまで、古枝尾センターにて奉納。

□演目一覧

エリメ	いたお 板起こし	屋祓い	祭式行事
ざなお 座直り	神しょうぜ	いちかぐら 壺神楽	しものじゅう 下ノ重
地ガタメ	ゆみしょうご 弓将護（弓通し）	もんて 門ノ手	ショウゴン殿
てんだいのもり 天大ノ森	だいじんどの 大神殿	みくま 三熊	オキエ
鬼神	ゴツ天皇	たちからめん 手力面	トトリ面
白面	ふくのたねまき 福ノ種播	猪トリ神楽	シバ引面
火ノ神	神送り		

平成 26 年 12 月の神楽奉納の番付に基づく

□演目の特徴

「弓将護」は弓を採り物とした舞で、米と麻緒をのせた折敷おしきに弓を突き立てて三方を舞い、その後たかまがはらに高天原に弓をかけ渡して舞う。舞の終了後、祝子が2張の弓を重ねて持ち鈴を振り唱え言をするなか、子供たちを弓の間に通し、大声で驚かす「弓通し」が行われる。村民が参加する信仰行事で、弓を通りぬけることにより厄災を祓うと伝えられ、夜泣きが治るとも云われている。

矢の舞である「門ノ手」の後には、不土野地区に広く伝わる「ショウゴン殿」が続き、宝渡しが行われる。お宝のお櫃ひつを抱え太鼓に腰かけた太夫の前に、願主が次々と進み出て、お宝を頂こうと願い事を述べる。最後の願主に、言上が良かったとお宝が渡される。

「天大ノ森」では、舞の始まる前に「只今より天大ノ森はじまり申す。那須一党の人はおまいり申せ」と口上があり、平家一族である椎葉一党が舞を奉納する。

□その他の特徴

- 面：鬼神、手力、戸取、女性面、シバ引 等。
- 楽：太鼓、笛、鈺かね（銅拍子）、楽板。「鬼神」「手力面」など面舞の登場には楽板も打たれ、太鼓が激しく叩かれる。
- 装束：紋服、袴、麻まの上じょうい衣、烏帽子、毛笠、宝冠えぼし（紙）、鉢巻き 等。足袋は黒色。
- 採り物：御幣、面棒、扇、鈴しやくじょう（錫杖型）、弓、矢、刀、榊の枝、お櫃、折敷、麻緒 等。

□伝承の現状・課題

神楽の演目は、以前は世襲制で、父親から長男に継承されてきた。少子高齢化が進み後継者が少なくなり、伝承が消えてしまったものもある。数年前に、地区の誰もが舞うことが出来るように継承のしくみを変えた。その結果、神楽への参加者が増加し、太鼓など楽のできる若い人も増えてきている。



門ノ手



ショウゴン殿



白面